



あすなる 通信

第19号 [2016年2月1日]

発行人：望月智行 編集人：経営管理室

医療法人財団 献心会 川越胃腸病院

〒350-0034 埼玉県川越市仙波町 2-9-2

電話：049-225-6888 URL：http://www.kib.or.jp/



医療法人財団献心会
理事長
望月智行

1月早々、6年前に胃全摘を行った84歳の患者様
がご婦人を帯同して来院されました。胃癌回復のお
礼にと、趣味で鍛錬された書を額装して持参された
もので、檜の板には「柏葉壽」(ハクヨウの「ト」フキ
と堂々たる見事な書体で書かれていました。聞けば、
柏の葉は枯落しないところから長寿を感謝する言葉
であり、これからも長く元気で医道に邁進して欲し
いとの言葉をいただきました。まさに外科医冥利に
尽きる贈り物であり、ご期待に応えなければと決意
したところです。

古来、長生きを望まない人間はいないといっても
よいのですが、長生きすることはなかなかの大事業
でもあります。また長生きが必ずしも長寿とはいえ
ない方も少なからず見聞き、いかにしたら自他とも
に喜び合える長寿を手に入れるかが大きな課題だと
いえます。私の外来には「夫婦で20歳」、「胃癌術後
で101歳、数年前まで木彫りの彫刻師」、「胃全摘後で
盆栽が趣味の元気な96歳の男性」など、まさに「長
寿の見本」といえるような患者様が多くいます。毎
回お顔を見るたびに当方が元気づけられており、「幸

“長寿の秘訣”

せな生き方とは？」を学ばせていただいています。
そこで長年の外来診療の中で感じてくること、
ひとり一人の体質や生まれ育った環境は違つのに、
「長寿の方々には不思議な共通点がある」といこと
とです。それは、①よく笑う(明るい)、②楽天的(否
定的なことを言わない)、③趣味がある(日々を楽
しむ)、④外に出る(外部との関わりを持つ)、そし
て⑤家庭円満(周囲の支え)などです。

笑いは免疫の中核であるNK細胞を活性化するこ
とが知られており、良く笑うことは良く生きること
につながっています。否定的なものの考えからは前
に向く気力や意欲が生まれません。「くよくよしな
い、あくせくしない、人生はなるようになるものだ
」という泰然自若な態度は奇跡を生むことがあります。
そうは言っても何もしない日は気が遠くなるほど
長く感じられます。趣味が楽しみになり、趣味も家
の中でできるものだけでなく、外部と接触する趣味
なら最高ですね。最後は家庭円満、夫婦円満。外来
でお会いする長寿の方々には例外なく家庭円満です。
人は一人では生きて
いけません。支え合
う姿は生きる喜びに
溢れ、人目にも美し
く映ります。今日か
ら単なる長生きより
も、生きがい名人を
目指してはいかがでしょうか？

Gallery



明けゆく善光寺平

組織で「学習する文化」へ

常務理事

須藤 秀一



健全な企業経営を行っている優良企業の多くはしっかりとしたマネジメント（経営管理）が実践されており、当院でも「すべての人の幸せを追求する」という経営理念を实践するために早くからマネジメントサイクル（PDCAサイクル）という考え方を導入し、組織としての取り組みを行ってきました。「PDCAサイクル」は医療のあらゆる現場で通じる大切なマネジメントシステムで、様々な課題を解決するための学習を重ねて組織の成熟をめざし、最終的には経営上の効果も上げるシステムでもあります。医療安全面でも潜在的リスクを認知して予防に努めるとともに、万が一事故などが生じた際には個人を追及するのではなく、全ての医療スタッフが内容を共有し、原因を学習して2度と同じような事故を起こさないという文化をつくるのが重要です。「PDCAサイクル」とは、米国エドワーズ・ディング博士が1950年代に提唱したもので、「PDCAサイクル」を継続的に回すことにより業務の効率や医療の質が向上するという理論のことで、経営から職員レベルの業務改善まで広く応用されています。

PDCAとは4つの英単語「Plan」「Do」「Check」「Action」の頭文字を取っています。

①P(Plan)：計画

目標を設定し、そのために何が必要なのかという仮説を立て、施策をプランニングする（具体的な行動計画に落とし込む）

②D(Do)：実施

計画に沿って具体的な業務を行い、定期的に状況をチェックする場をもつけ、進捗状況を確認する

③C(Check)：評価

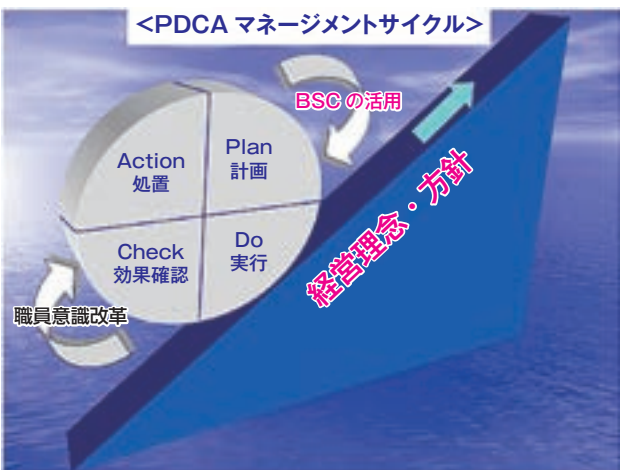
計画にそって施策がきちんと展開されているか、検証・評価を行う

④A(Action)：改善・処置

検証と評価で見えられた改善すべき点を是正して次のP(Plan)：計画をたて、新しいサイクルにつなげていきます。このようなサイクルを恒常的に描き続けることによって業務の質が向上していきます。(Spiral up)（スパイラルアップ）

当院ではPDCAサイクルの実践事例として多くものがありますが、長年に亘り検討し続けているものの一つに「外来受付・診察待ち時間の改善」の取り組みがあります。H12から予約診察制度の導入、H14から午後診察の導入、H16から内視鏡センターでの会計処理導入、H20から投薬のみ希望患者様の専用診察室の設置、その他適宜、待合ロビーの環境

整備など患者様の立場に立ってデータを取りながら改善を行って参りました。これらのPDCAサイクルを回しながら検討・改善を重ねて参りましたが、いまだ皆様のご要望に十分お応えできてない点も多く、積み残している課題も少なくありません。しかしながら現場では、このような取り組みを通じ全職員が組織的に学習する文化が根付き、改善につながる努力を真剣に行っておりますので、今後とも温かく見守っていただければ幸いです。



術後の栄養指導

栄養科主任
横田千絵
(管理栄養士)



川越胃腸病院では一年を通して多くの方が入院し手術を受けていただいております。

入院中の食事は、治療食として医師の指示に基づき、病態に合わせて栄養科で調理しております。

術後患者様の退院が決まった時の大きな心配事のひとつに、「家に帰ってからの食事があります。当院では、患者様にそんな不安な気持ちを少しでも取り除いた上でご退院していただくために、管理栄養士が患者様やご家族と個室にて面談し、以下のような退院後の食生活指導を行っております。(主として食事療法が特に重要な胃切除の患者様が対象)

- ① 術後の身体的・機能的変化と、それに伴った食事の仕方について(消化器の働きと、よく噛んでゆっくり食べることの意義)
- ② 消化の良い食べ物、悪い食べ物について(術後の段階に合わせて、食品群別に解説)
- ③ 調理方法について(煮る・蒸す・焼く・揚げるなど調理をどのように選択するのか)
- ④ 合併症について(腸閉塞、ダンピング症候群、貧血などの原因と対処方法)
- ⑤ 献立作成について(主食・副菜のバランスのととり方。各家庭での食事を、最小限の負担に抑えながら、どのように治療食へと反映していくのかなど)

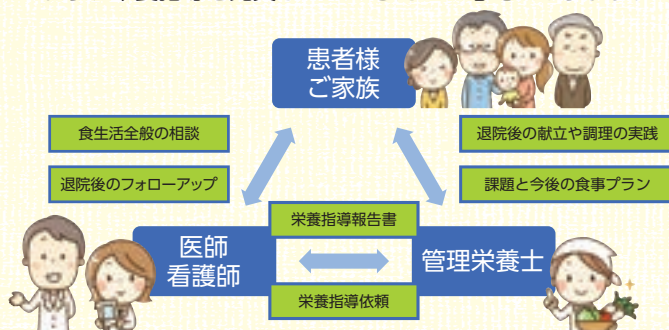
これらは一定期間継続して行っていただく必要がありますので、こちらからの一方的な情報提供ではなく、患者様が最も知りたいとおっしゃる「何をどのぐらい食べ

たらよいのか?」ということを中心にお話しいたしております。

栄養指導の目的は、手術をきっかけに、ご自身の体の変化や食生活の重要性を改めて振り返り、今後何が必要になってくるのかを患者様とご家族、管理栄養士と一緒に学んでいただき、その中から生まれた「気づき」を各家庭で実践していただくことにあります。

そのために私たち管理栄養士は、必ず栄養指導前に医師・看護師等から入院前の患者様の生活スタイルや家族構成、職業などの情報を得て、患者様の背景をしっかりと把握するように努めております。その上で、個々の患者様に合った指導内容を事前に十分に検討してから栄養指導に臨むように心がけております。また、栄養指導後の報告書は、電子カルテにて、すべてのスタッフで共有できるシステムになっております。

これからも、このような情報の共有サイクルを通して、患者様に退院後も安心して外来治療を受けていただけるよう、栄養指導を充実させていきたいと考えております。



患者様の声

「あすなる健康教室」について

医療サービス対応事務局
橋本恵子 (Xティカルクラーク)



医療サービス対応事務局では年に二回(三月と九月)、当院の多目的ホールにて、「あすなる健康教室」を開催しております。今回は、この「あすなる健康教室」をご案内させていただきます。

あすなる健康教室は平成十二年に当院患者様とご家族、地域住民の方々を対象にして始まりました。参加費は無料で、どなたでも気軽に参加していただくことができます。

人の健康とは単なる病気がないと言っただけではなく、心と体の機能が十分に発揮できる状態を言います。したがって、毎回のテーマは、胃腸疾患に関する最新の医療情報の提供や病気の予防策だけでなく、「よりよき健康をめざす・今日より明日はもっと元気になるまじょう」という当院からのメッセージが込められております。

テーマは参加していただいた皆様のアンケートの結果も踏まえて決定し、内容も講師となる当院の医師、看護師、薬剤師、栄養士等が、少しでもわかりやすくするために工夫しております。

これまでに開催したテーマは、「ヒロリ菌と慢性胃炎」、「胃腸力アップの秘訣」、「笑いとお腹」などですが、中でもお子さんも一緒に家族で参加していただいた「家族で考えるいのちと健康」は、好評を博しました。

今年第一回目の「あすなる健康教室」は、三月二十四日(木)十七時~十八時の開催を予定しております。テーマは「胃がん健診が変わります!」(講師:望月院長)で、新しい胃がん健診について最新の情報をお届けする予定となっております。只今外来窓口にて参加受付中です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ほつと タイムサービス

栄養科
大神愛（栄養士）



当院で毎月行っております「ほつとタイムサービス*」でお出しした、お菓子のレシピを公開します。

*「ほつとタイムサービス」とは、当院の入院患者様を中心に、ご家族やお見舞いのお客様へ毎月ご提供しているお茶とお菓子のサービスイベントです。皆さまのひと時の安らぎと想いを願って、毎回栄養科員でオリジナルメニューを考えてご提供しております。



ソフトチョコ バナナクッキー

材料（約30枚分）

- *ホットケーキミックス…150g
- *バター…60g
- *砂糖…10g
- *バナナ1本（約100g）
- *チョコチップ…15g

作り方

- ① 室温にもどしておいたバターに砂糖を加え、白っぽくなるまで混ぜる。
- ② バナナをつぶして加える。
- ③ チョコチップを加えたら、ホットケーキミックスを2～3回に分けて入れ、混ぜる。
- ④ ③をスプーンですくいながら、オープンシートに落とし、170℃のオーブンで10分焼く。

腫瘍マーカー検診を 始めました。

菅原淑子（臨床検査科主任）



腫瘍マーカーとは悪性腫瘍（がん）の指標となる特殊な物質のことです。腫瘍ができる、健康なときにはほとんど見られない特殊な物質がその腫瘍により大量につくられ、血液中に出現します。この物質を「腫瘍マーカー」といいます。

腫瘍マーカーは、がんの発生臓器と強い関連を持つため、血液中にこの物質が基準以上に出たときは、がんがある可能性が推測されます。

血液1本で検査出来ます。
予約不要で、診察も不要。
結果は郵送いたします。

今すぐ
出来ます

ただし、腫瘍マーカーが上昇しているからといって必ずがんがあるわけではなく、反対に正常域だからといって完全にがんが否定できるわけでもありません。腫瘍マーカーはがんがあっても検出されないこともありますし、がん以外の疾患でも増加することがあるためです。確定診断は、他の血液検査、超音波検査、X線やCTなどの画像診断、内視鏡検査などの結果から総合的に判断して下さい。

対象となる癌	腫瘍マーカーの種類	費用
① 胃・大腸癌検査	CEA、CA19-9、抗 p53 抗体	5000円
② 肝・胆・膵癌検査	CEA、CA19-9、AFP	5000円
上記①②同時検査の場合	CEA、CA19-9、抗 p53 抗体、AFP	6500円
③ 前立腺癌検査	PSA	1500円

*別途、消費税が掛かります。

チーム活動のご紹介

委員会活動

病棟主治医カンファレンス

看護部病棟

高橋純子（看護師長）



医療の高度化・複雑化に伴う業務負荷の増大に対応しつつ医療の質や安全性の向上を図るためには、多職種が目的と情報を共有し互いに連携し補いあつて、患者様の状況・状態に適切に対応していくことが重要です。

当院では、長期の入院患者様を受け持つ主治医（藤野副院長・紫藤内視鏡センター長兼外来部長・山下内科医長）と、看護師・薬剤師・栄養士・地域連携その他の関係部署の職員とが集まって、各医師の受け持ち患者様の多職種カンファレンスを定期的開催しております。

そこでは入院中の患者様について、現在はどうな状況なのか、今後の見通しはどの様なかなどを話し合いながら問題点を見だし、治療方針や看護方針などの情報交換を行っております。

入院患者様だけでなく、外来通院中の患者様や入院予定の患者様の情報共有にも努めております。

それらに加え、インシデント・アクシデント事例の振り返りや検討なども行っております。

これからも、チーム医療の強化に繋がる病棟主治医カンファレンスを推進し、患者様により質の高い医療を提供できますよう努力して参ります。